

前回審議会における主な意見【令和2年度第1回】

項目	ご意見等	発言者	事務局対応・考え方
4次計画総括と5次計画視点	明確にSDGsの一部としてのジェンダー、ダイバーシティの考え方を方針として推進していくことを第5次計画に入れていく。	古田会長	ジェンダー、ダイバーシティに関する記載を盛り込んでいきます。
	第4次計画までで達成できたところとできないところがあって、できないところは第5次計画にどう反映していくのか。 コロナ禍によって強制的に世の中は変わっている。今後、5年間で何を仕上げていくのかというところが、アピールの一つとして必要。年度ごとの段階的目標を設定するのはよい考え。	清水委員 古田会長	具体的にどういった達成目標をつくっていくか、もっと踏み込んだ4次計画の総括をした上で、適切な目標等を立てていきます。
【重点1】 方針決定過程への女性の参画拡大	女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を作るにあたって一番大事なものは現状分析。そこから行動計画をつくるという基礎的ことが企業に伝わっていない。 女性が活躍することが企業の利益に結びつくという一連の見せ方が大事。	山極委員	女性活躍推進会議の場を活用して、御意見の趣旨を伝え、計画策定が進むよう努めます。
	地方であっても、グローバルの視点というのは極めて大事で、その中で、最近着目されているのがESG投資と女性活躍。 また、国連の女性エンパワメント七つの原則というのが、今ビジネスに直結するというので、非常にここも着目されているが、その辺については触れられていない。	山極委員	国際的に協調していかなければいけない部分もあるため、計画に盛り込めるよう検討します。
	どの市町村も一番敏感なのは人口の急激な減少。その中で、各自治会にしても、どうしても男性が自治会長はじめ中心になっている。女性がそこに入りきれないというのも、今後改善していかなくてはいけない。	武井委員	御指摘の内容については、地域活動における重要な課題と捉えています。男性中心の組織運営の見直し、誰もが参画しやすい活動のあり方等の検討が必要と考えます。
【重点2】 WLBの実現	コロナ禍は、WLBを大きく進展させるのか、雇用状況が悪くなるだけで女性にしわ寄せが行くのかといった転換点になる。 非正規労働者が解雇されたとか、家に子どもがいて仕事との両立が難しいといったような声の拾い上げ、事実の収集を行い、どうしていくかということを第5次計画に入れていかなければならない。	古田会長 宮島委員	コロナ禍により明らかになった課題について、実態の把握等に努めます。
	男性中心型労働慣行を前提とした制度は大きく見直していく必要がある。中小企業にとって手の届くようなロールモデルの紹介が足りていない。 「雇用によらない働き方」は、「起業したいのか、雇用による働き方ができないのか」の冷静な判断が必要。もっと企業に柔軟性があれば、ジェンダーの壁を越えて働き方の多様性が広がる。	福盛委員	・働き方改革の観点から男性中心型労働慣行の見直しは重要と考えます。 ・多様な働き方を広げていくためには、働く側、企業側の実態の把握が必要と考えます。
	女性のキャリアは就労キャリアだけでなく、長いスパンの中で、自分の活躍を、どうやって地域やいろんな形で進めていくか、ライフキャリアという観点が必要。 女性のライフキャリアの分岐点に正確なアドバイスができれば、一旦家事や子育てに入っても、それも全てキャリアとして、大きな経験を積んで帰ってくるができると思う。	清水委員	家事、育児等の経験が、仕事にも活かされるということがもっと認識されるべきと考えます。

項目	ご意見等	発言者	事務局対応・考え方
【重点2】 WLBの実現	子育てと介護のダブルケアの時代になっており、社会の働き手を失うことになっている。 少子化と併せてこちらのケアもしっかりやっていかれる体制を、第5次計画の中で入れていければ。	尾臺委員 柄澤委員 山極委員	介護離職が増加している中で、介護と仕事の両立も重要な課題と捉えています。
【重点3】 暴力の根絶 と健康支援	言葉の暴力は心を殺すと言われる。暴言も暴力の一つだということを文面に生かしてもらいたい。	宮澤委員	暴力には様々な形態があるということについて、計画に盛り込むよう検討します。
【重点5】 意識改革・ 理解の促進	ジェンダーギャップの解消を地方から、そして長野県から進めるため、「教育県・長野」の県民気質を生かして、教育関係者との連携をさらに強化して、学びを基軸に女性活躍を意識改革の面から後押しする、信州型オリジナル男女共同参画の学びを展開しては。 みんなが男女共同参画社会の実現のメリットなどを共有できる学びの場、そういうものが必要。	尾臺委員	県の総合5か年計画の中でも学びを大事にしています。長野県らしい学び、男女共同参画らしい学びを検討していきます。
【重点6】 魅力ある地 域創出	若年世代の人口流出は、ここ何年も課題になっている。 若い世代が長野県に戻ってきて、自分の希望や夢を叶えられる場所であると考えられるような場所になるために、雇用環境、子育てしやすいといった対策を視点として取り入れていく必要がある。 また、コロナの影響でリモートワークも増えている。地方でゆったりと心身ともにストレスのない環境で働いたり、生活したいという方も実際増えていると聞いている。長野県は豊かな環境であったり、首都圏とは比較的距離も近い利点もあるので、この辺はぜひ発信していきたい。	柄澤委員 宮島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若年世代の人口流出については、県にとって重要な課題の一つと認識しており、計画にも盛り込むべき内容と考えています。 ・コロナ禍を機に、地方回帰の動きも見られるため、長野県の魅力を発信して人を呼び込む・呼び戻すことについて、計画にも盛り込んでいくよう検討します。 ・コロナ禍がデジタル化を加速化させているという面もあるため、男女共同参画の推進と関連付けて計画に盛り込んでいくよう検討します。
	コロナはある意味ではチャンス。地域的には長野県は非常に地の利がある、非常に評判がいいところなので、人を引きつけることができる。 特にデジタル化に関しては、男女共同参画だけではなく、あらゆる側面から県庁を挙げて、よその県よりうちが絶対進んでいるという状態をつくと、かなり得になる。 SDGs、教育に加えて、デジタル化に関しても、ほかの県よりも、今すぐにリードして進め、男女共同参画にも使っていただきたい。		
連携体制の 強化	男女共同参画それ自体が目的化されてしまっていて、県全体、組織全体で担うべきメインストリームになっていない。	根橋委員	御指摘のとおり、男女共同参画そのものというより、あらゆる施策や活動等に男女共同参画の視点を取り入れていくことが重要と考えます。
	県全域で男女共同参画を進めるためには、市町村における男女共同参画計画の策定が必要。一層の策定促進に取り組まれない。	尾臺委員 根橋委員	多くの市町村で計画策定が進むよう努めているところであり、随時、市町村からの要望等に応じて情報提供等の必要な支援を今後とも行っていきます。